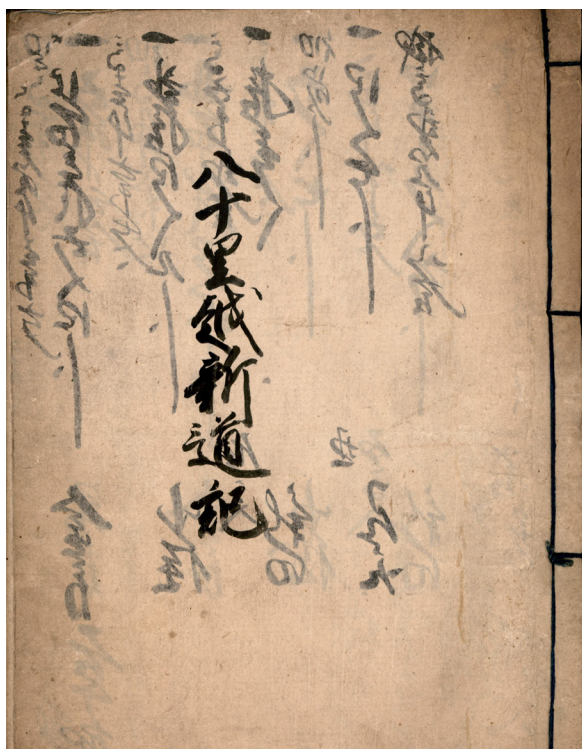




▲天保14年(1843年)に改修された八十里越(只見町叶津地内)



◀『八十里越新道記』 渡部雅俊さん(中荒井) 所蔵



入叶津(只見町)

奥会津博物館企画展

「八十里越新道記」を読む

～南山御蔵入代官・平岡文次郎の功績～

『八十里越新道記』を読む

国道289号「八十里越」は、着工から約40年の時を経て、令和9年夏頃に仮開通を迎える予定です。

この峠道の歴史を語るうえで欠かせないのが、今から183年前の天保14年(1843年)に、南山御蔵入代官・平岡文次郎の主導で行われた大規模改修工事です。下山村(南会津町下山)の名主・馬場順平が記した『八十里越新道記』には、当時の詳細な記録が残されています。

本企画展では、現在町内に現存する貴重な3冊の『八十里越新道記』を全て展示し、当時の大規模改修工事を深掘りします。

また、藤生区と静川区を結ぶ古檜峠こびとうげの藤生側に現存する「八十里 みち」と刻まれた道標(町指定文化財)を藤生区のご厚意により借用し、奥会津博物館入口に展示します。

開通を目前に控えた今、八十里越の歴史と先人たちの熱い思いにぜひ触れてみませんか。

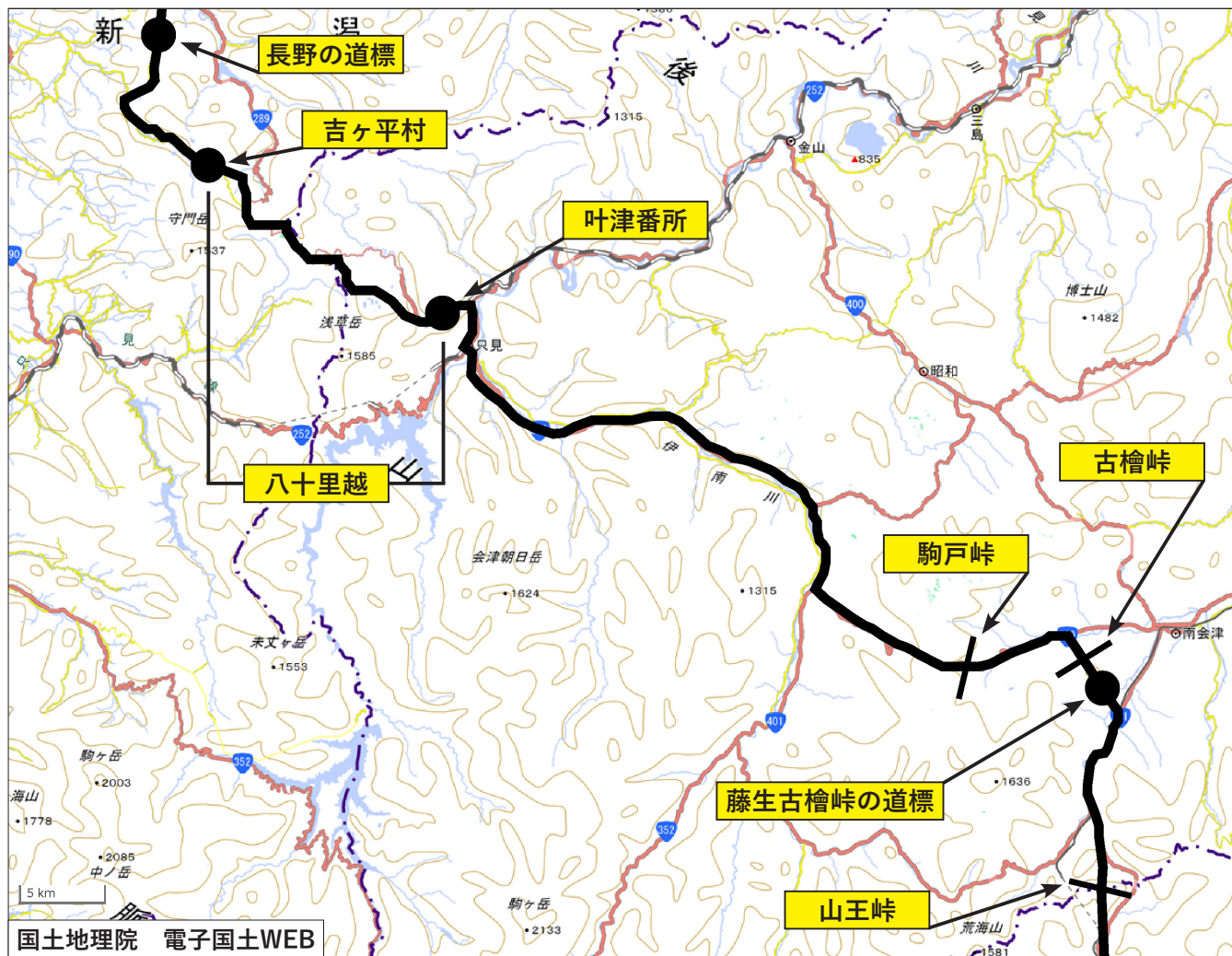
改修工事を求める民衆の声

八十里越は、叶津村(只見町叶津)から大白川新田村(新潟県魚沼市)を通り、吉ヶ平村(新潟県三条市)へ続く約26kmの峠道です。会津藩が編さんし、文化6年(1809年)に完成した『新編会津風土記』にも「道が険しく狭いため、牛や馬の背中に米や塩を乗せて運ぶことはできない」と記されるほど、物資輸送は困難を極めました。

天明3年(1783年)、大冷害により飢饉が発生し、事態が動きます。会津藩の歴史書『家世実紀』によると、天明4年(1784年)1月時点で、南会津町を含む南山御蔵入内で2,432人もの餓死者が出るという悲劇が発生。

当時、南山御蔵入を江戸幕府から命じられて統治していた会津藩は、窮状を打開するため、越後から救援米1,000俵を買い付け、人々が背負って八十里越を運搬しました。

この過酷な経験から、民衆は「牛や馬で米や塩を運べるように」と、八十里越の改修を熱望するようになりました。



※上記地図の地名は『新編会津風土記』に表記されている地名です。

本企画展は、奥会津7町村文化施設間連携企画展
「奥会津の道 街道・鉄道 行き交う人・もの・文化」として開催します。
奥会津博物館では、同時に「熊野縁起絵巻と懸仏」展も開催します。
仏教と深く習合した熊野信仰と勧請に着目し、「熊野縁起絵巻」や「懸仏」を展示。
奥会津における信仰の伝播の様子を紹介します。

- ◆開催期間 7月18日(土)～11月30日(月) ※期間中無休
- ◆開館時間 午前9時～午後4時
- ◆入館料 大人：300円 高校生：200円 小・中学生：100円
※20名以上の場合は、50円割引

【関連イベント】

講演会 「八十里越新道記」を読む ～南山御蔵入代官・平岡文次郎の功績～

- ◆開催日時 9月27日(日) 午後1時30分～午後3時30分
- ◆開催場所 奥会津博物館内 山王茶屋
- ◆講師 奥会津博物館文化財専門員 渡部 康人



【問合せ】

奥会津博物館
電話：0241-66-3077

写真は小林宗一さん(福米沢) からお提供
いただきました。

平岡文次郎と
天保の大規模改修工事

天保8年(1837年)に南山御蔵入代官に任命された平岡文次郎は、民衆の熱望に応えるべく、現地をくまなく検分し、八十里越改修の必要性を幕府へ訴えました。その結果、工事は許可され、平岡は幕府から八十里越大規模改修工事の責任者に任命されました。注目すべきは、工事費とその調達方法です。平岡が幕府へ提出した文書には、工事費1,200両(約1億5,000万円相当)は寄付でまかなうと記されています。平岡は、水原代官(新潟県阿賀野市)も併任しており、面識のあった「水原13人衆」と呼ばれる豪農たちに協力を仰ぎ、佐藤友右衛門から1,000両、小島次郎助から200両という巨額の寄付を受けました。さらに、吉ヶ平村区間の工事費は村松藩が負担するなど、官民一体となった一大プロジェクトとなりました。平岡自身も、天保14年8月11日から26日まで作業小屋に寝泊まりし、工事を検分しました。

歴史をつなぐ古檜峠の道標

『八十里越新道記』によると、工事に従事した延べ人数は3万1,320人、費用は802両。残りの約400両は、後の改修工事費として田島代官所で保管されました。その後平岡は、駒戸峠・針生・古檜峠を通り江戸へと帰りました。今回の展示の目玉の一つが、古檜峠の道標です。「八十里」と刻まれた道標は、八十里越の越後側の入口にあたる長野(新潟県三条市長野)と、古檜峠(南会津町藤生)の2基のみが現存しています。平岡も江戸への帰路に古檜峠を通っていることから、当時、この峠が越後から八十里越を通り、関東に至る重要なルートとして位置づけられていたことが分かります。企画展では、こうした貴重な歴史的資料を通じて、八十里越が果たしてきた役割と変遷を紐解きます。



◀ 古檜峠(南会津町藤生)の道標



▶ 長野(新潟県三条市長野)の道標

弘化2年(1845年)藤生村が建立した馬頭観世音。文字碑の台座部分が道標になっており、「右 針生 八十里 みち」「左 山」と刻まれている。

寛政10年(1798年)に建立された庚申塔。文字碑の側面が道標になっており、「右ハ会津八十里ミチ」「左ハ大谷丸倉ミチ」と刻まれている。